

# 環境パフォーマンス

## 〈2008年度データ〉



未来の子供達のために  
美しい地球を残しましょう！

モリタエコノス EMS事務局



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%

## ■ はじめに

㈱モリタエコノス本社・本社工場が1999年6月にISO14001の認証を取得（審査登録）し、約10年が経過致しました。この10年間の環境活動において、ISOの認証に関らず環境法規制順守は勿論のこと、環境負荷低減活動が意識付けされてきていることもあり、2009年度はISO14001の認証を一旦取下げ致しました。

認証取下げ後も、全社一丸となり、社会的企業責任（環境法規制順守）を果たし、環境負荷低減活動に取り組んでまいります。

2008年度の環境パフォーマンス全体についてまとめてありますのでご一読下さい。

## 社長の言葉

温暖化など気候変動によるさまざまな異変が現実化する中で、地球に生きる人類が地球のために何をしてきたかを反省し、将来もこの地球生命を守り続けるために何をすべきかを考え実行することが私たちに課せられた緊急の課題です。資源の無い日本では代替燃料や置換材料、省エネなどの技術革新は目を見張るものがあり、世界に誇れるハイブリッド車・電気自動車に代表されるように環境革命の時代を迎えています。

国（内閣官房・経済産業省・環境省）が取り組む「排出量取引の国内統合市場の試行的実施」に日本自動車車体工業会を通じて「自動車生産温暖化対策推進協議会」としてCO2排出量取引活動に参画しております。

当社は企業理念「安全で住みよい豊かな社会に貢献し、社会との調和を図る」のもと、高度な循環型社会実現のため、環境保全特殊車輛を通して地球環境技術の発展に邁進し、今を生きる同時代人のみならず、歴史を引き継ぐ私たちの子孫へ何を財産として伝え手渡してゆくのかを真剣に考え地球環境づくりに努めています。この度発行の環境パフォーマンス2008（環境報告書）では各種実績を掲載していますが、事業活動の更なる改善と、より一層の環境負荷物質削減に取り組んでまいります。



取締役社長  
奥田 善次郎

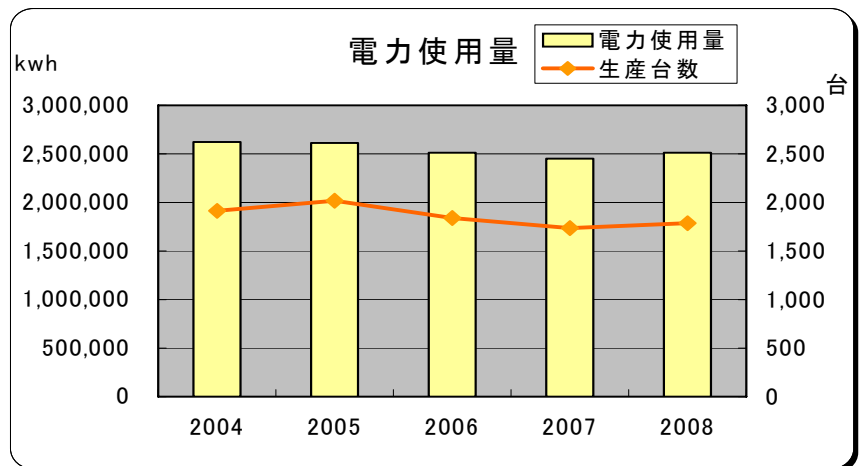
## ■ 環境パフォーマンス（注：生産台数は、社外架装台数も含みます）

### ● 電力使用量

2008年度は、前年より生産台数の増加および、本社工場内での塗装台数増加により、電力使用量も増加したものと考えられる。

【好む工場の電力使用量について】  
槽内で顔料が沈降しないよう、常時攪拌ポンプを稼働するため、生産台数に関係無く電力が発生する。

※2009年度は、常時攪拌が不要となる好む塗料の変更について取り組む。

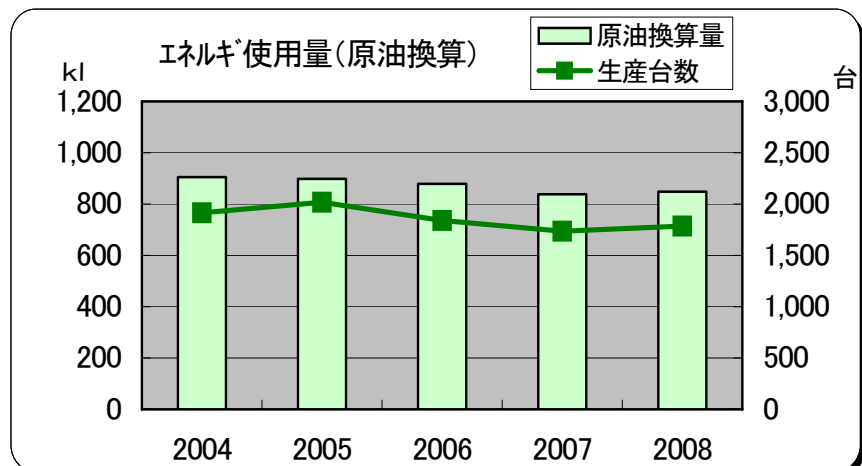


### ● エネルギー使用量(原油換算)

対象：電気、都市ガス、プロパンガス、ガソリン、灯油、軽油

2008年度の原油換算値＝848kl

原油換算（年間）1,500kl未滿なので、「省エネ法」のエネルギー管理指定工場に該当しません。



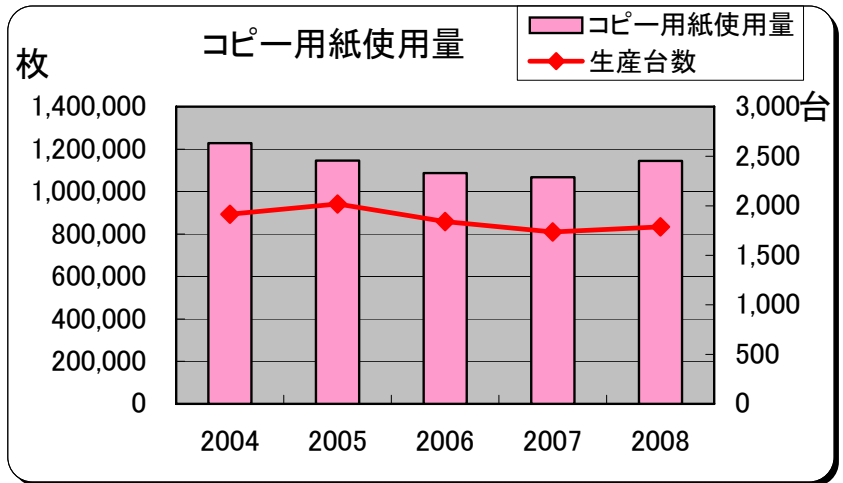
## ● コピー用紙使用枚数

2008 年度の目標は、2007 年度対比 2.86%削減のところ、6.6%増加となり「未達」でした。

※生産台数の増加と会議・検討等の管理資料の増加が原因の一つと考えられる。

### 1日の単位で実感してみると・・・

(1年の稼働日数=241日で換算)  
 2008年度=毎日、4,750枚使用  
 2007年度= " 4,430枚使用

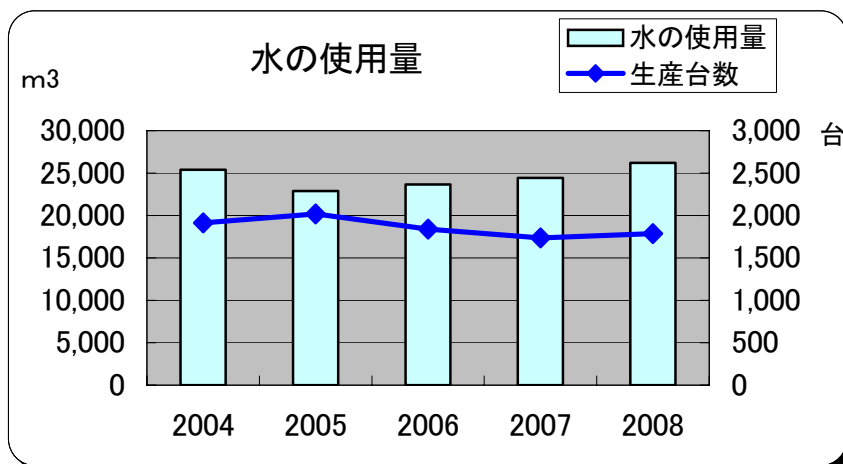


## ● 水道水使用量

過去 3 年間において、老朽化による配管漏洩が発生しており、水道使用量の推移が不明確となっている。

### 1日の単位で実感してみると・・・

(1年の稼働日数=241日で換算)  
 2008年度=毎日 109m<sup>3</sup> (=109ト) 使用  
 2007年度= " 101m<sup>3</sup> 使用



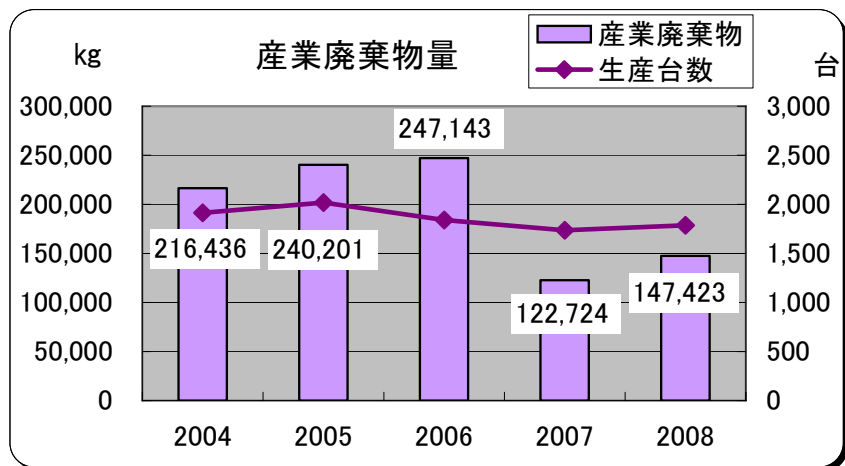
## ● 産業廃棄物総排出量

(再資源化量含む)

2008 年度より、「廃材(木くず)」が一般産業廃棄物⇒産業廃棄物(マニフェスト管理)に変更となった。

※2008 年度「廃材」処分量=15,820kg

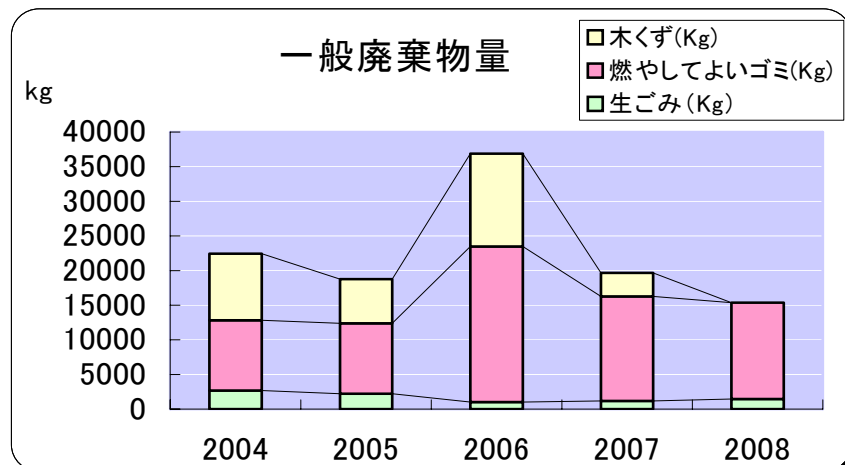
2005 年度は、通常発生しない電着廃液を大量(55,000Kg)に処分(材料品質低下により)。2006 年度は、1,000トンの金型の除却(65,870kg=有価物)が原因で排出量が増加となった。



## ● 一般廃棄物排出量

2005 年度以降、廃棄量が増加しているのは、毎年定期的に不用品(機密書類など)を処分するようにしているからと考えられる。

※「廃材(木くず)」は、2008 年度から産業廃棄物に変更となりました。



## ● PRTR法に基づく排出・移動量

※P R T R法 (Pollutant Release and Transfer Resister : 特定化学物質の環境への排出量等の把握及び管理の改善の促進に関する法律)

スプレーガンによる塗装作業において、塗装ブース内の活性炭への吸着率：90%、塗着効率：40%として、塗料の購入量から算出しました。  
※サイトの全購入量ベースで算出

PRTR排出・移動量推移

物質No.	CAS	特定化学物質名	単位:kg		
			2006年	2007年	2008年
227	108-88-3	トルエン	195.24	400.75	316.78
63	1330-20-7	キシレン	106.01	239.70	257.25
40	100-41-4	エチルベンゼン	9.50	62.37	48.89
		その他	41.24	49.69	40.90

## ● 大気測定 (カチオン電着塗装施設の排ガスを測定しています)

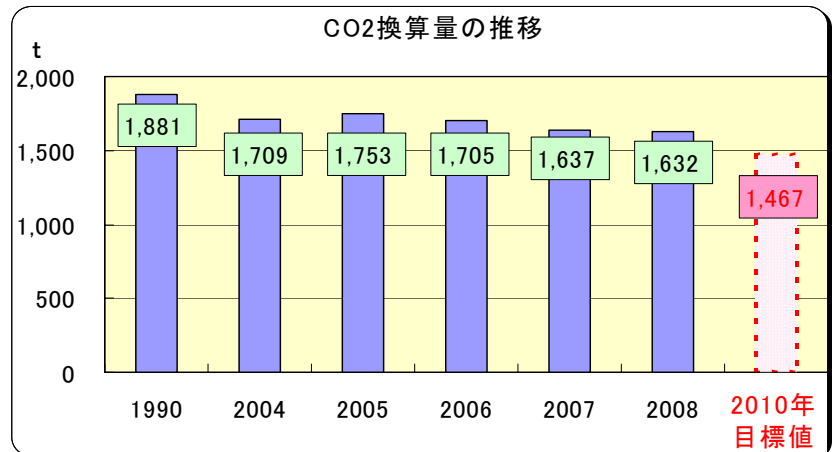
規制対象 / 機器・設備等	規制対象 (測定物質等)	規制基準 (値)		実測値 (最大)		
		国	府	2006年	2007年	2008年
乾燥炉 (カチオン電着塗装施設)	ばい塵	-	0.1 g/Nm <sup>3</sup>	0.001	0.001	0.001
	NOx	-	150ppm	38	34	34
	ホルムアルデヒド	-	13.48mg/Nm <sup>3</sup>	3.2	0.87	5.4
ボイラー (カチオン電着塗装施設)	ばい塵	0.05 g/Nm <sup>3</sup>	-	<0.001	<0.001	0.004
	NOx	230ppm	-	26	29	27
化成皮膜施設 (カチオン電着塗装施設)	マンガン	1 mg/Nm <sup>3</sup>	-	0.01	<0.01	<0.01

## ● CO<sub>2</sub> 発生量

(CO<sub>2</sub> は地球温暖化の原因となります!)

車工会では、「2010年度のCO<sub>2</sub>排出量を1990年度比22%削減」としています。

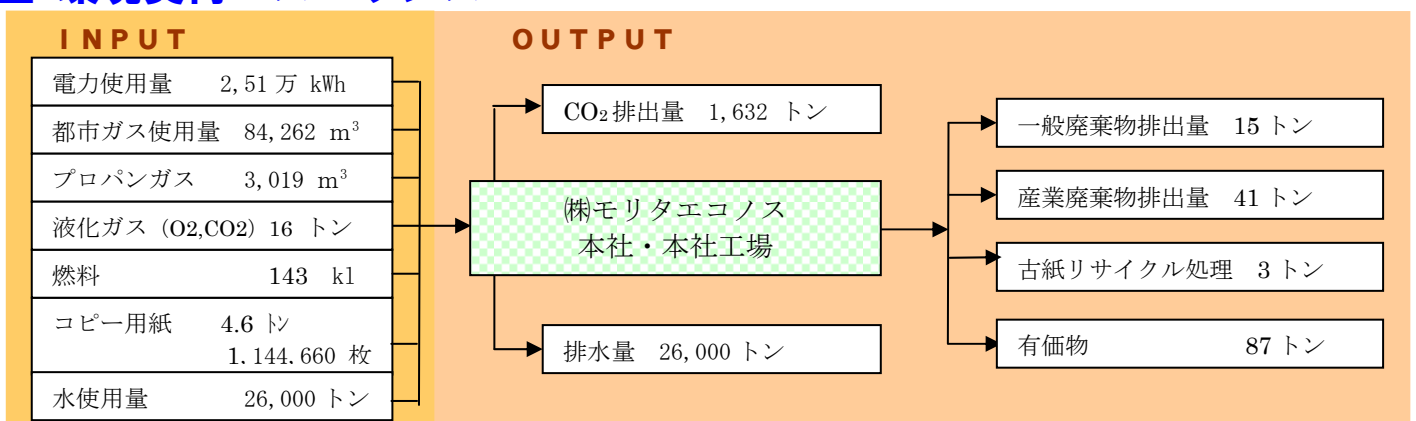
1990年以降(1997年～)はカチオン工場が増設され、それに伴う電力使用量が、約520,000kwh/年増しとなっている。もしもカチオン工場の電力量を除いたとすると、1,435tとなり、2010年の目標値を達成しています。



## ● 水質測定 (排水処理後、公共下水道へ放流しています)

規制対象 / 機器・設備等	規制対象 (測定物質等)	規制基準 (値)		実測値 (最大)		
		国	府	2006年	2007年	2008年
排水処理施設 (カチオン電着塗装施設)	鉛	0.1mg/1L	-	<0.05	<0.05	<0.05
	pH	5.7~8.7	-	7.9	7.7	7.7
	BOD	300mg/1L	-	86	84	56
	SS	300mg/1L	-	10	30	26
	ノルマヘキサン抽出物質 (鉍油)	5mg/1L	-	2	1	3
	亜鉛	5mg/1L	-	<0.08	<0.05	0.2

## ■ 環境負荷マスマバランス



## ■ 2008年度実施計画（環境マネジメントプログラム）－《本社・本社工場》

環境方針と整合する目標を達成するための実施計画を立て、有害・有益を問わず環境に影響を与える要因である環境側面を特定し、2008年度の環境目標と実績を次のようにまとめました。

	環境方針 (主な推進項目)	重大な環境側面/ 重大な環境影響事項 (推進部門)	2008年度環境目標	実績
1	省資源活動の推進	廃棄木製パレットの発生防止／天然資源（木材）の使用量削減 (購買・外注課)	廃棄木製パレット・梱包材の発生防止（再使用品は除く） 2006年度対比（12,190kg）より35%（4267kg）削減	【目標達成】 2008年度廃棄量：7,090kg 2007年度実績より41.8%削減
2		文具用品・機器の管理／資源としてのリユース (管理部)	器材を資源としてリユースする 《リユース金額》 2008年度目標：130,000円	【目標達成】 リユース文房具用品金額 (¥257,435 / 198%)
3	省エネルギー活動の推進	浄化槽汚泥収集車の普及促進／大気汚染の削減・地球温暖化の緩和 (営業統括部)	エネルギーの使用削減 ・市町村所管部の探索とPR内容の検討	展示会および顧客訪問によるPR活動を行う 勉強会=4回、広告掲載=2回、 キャンペーン実施活動=4回、 展示会開催=2回
4		品質改善活動／クレーム対応でサービス稼働による燃料削減 (品質保証部)	使用燃料の削減 市場クレーム件数の削減 今期生産分 175 件以下（前年比30%減）	【目標未達】 市場クレーム件数 302 件
5	環境に配慮した製品設計・生産の推進	有害塗料使用量の削減 塗装塗料の鉛フリー化により環境影響の低減を図る (生産課)	今年度の有鉛塗料使用実績及び代替となる無鉛塗料を調査し、実現の可能レベルを検討して、次年度以降の目標を決める	2008年4～12月の有鉛塗料使用分1003.3kgは全て代替可能であった。 ※2009年度は、技術開発部の「環境負荷物質削減」活動と共に、車輛上塗り塗装の鉛フリー化に取り組めます。
6		環境負荷物質 SOC の削減／土壌汚染・水質汚濁の予防 (技術開発部)	カドミウム、六価クロム、水銀の全廃（除外部品を除く） 鉛の使用：2002年度比1/2以下	【目標未達】 仕入先業者への環境負荷物質調査の回答率低迷。 ※調査時間、費用を要する等の理由で回答を得られない業者が多い。
7	その他	産業洗浄資格試験の協力 (営業統括部)	産業配管洗浄士の普及	【目標達成】 日程表（マナロ）通り進行。

## ■ その他の活動

<p>清掃ボランティア(1回/月) 2000年2月7日開始～継続中 第113回(2009-07末現在)</p> 	<p>食堂のお箸を割り箸から再利用可能なお箸に変更 ※女性社員のアイデア提案により 2006年9月開始</p>  	<p>チームマイナス6%への参加 「COOL BIZ」、「WARM BIZ」の推進 (2007年7月～)</p> 
---	--	--

## ■ おわりに

地球上に暮らす人間の一人ひとりが、1つでも環境によいことをしてみると、きっと地球の未来は変わっていくと思います。モリタエコノスはこれからも、環境を守るためにできることを考え、実行していきます。この報告書を読んで、ご質問、ご感想がございましたらEMS事務局までお願い致します。